

養成所 ニュース

発 行 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所
〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 KDX 浜松町ビル 6F TEL (03) 3438-0984 (直通)
FAX (03) 3431-1803

第32期生 199名が 受講スタート！！

2020.7 No.30

令和2年7月1日発行

「ソーシャルワーク実践の担い手として」

32期生の皆さん、歴史ある本養成所へのご入学おめでとうございます。心より歓迎いたします。そして、本養成所で学ばれ、社会福祉士の国家資格を取得された皆さん、合格おめでとうございます。同じ「志」を持ち、学ぶ機会を共有できたことをうれしく思います。

本養成所は1989年（平成元年）に日本知的障害者福祉協会の人材育成研修部門のひとつとして、主として福祉現場の職員を対象に開設され、今年で32年目を迎えます。これまで8,000名を超える多くの先輩方が学び、全国の会員施設・事業所をはじめとする多くの福祉現場で先駆的な実践を積み上げています。

社会福祉の理念は「地域共生社会の実現」ですが、その一方で障害のある人たちは厳しい現実には置かれています。4年前に神奈川県相模原市の障害者支援施設で19人もの命が奪われる事件が発生したことは記憶に新しいと思います。また、非常に残念ながら、毎年多くの障害者虐待事案が発生し、被害者の多くが知的障害のある人たちであるという、ソーシャルワークの原則である「個人の尊厳」と「社会正義」からほど遠い現実があることを直視する必要があります。

福祉の現場にいる方はご存じのことと思いますが、障害のある人たちは本当に魅力的です。そして、かけがえのない

人間としての価値をもった人たちです。障害のある人たちと関わる仕事は大変なこともありますが、夢や希望や愛にあふれた素晴らしい仕事です。福祉に携わる者は、障害のある人たちの魅力を広く社会に伝える役割があります。そして、障害のある人たちの「人としての権利」を擁護し、社会参加を進める担い手の中心となるのが社会福祉

士です。国家資格である社会福祉士には、誠実さをもって個人の尊厳を保持し、関係者との連携を保ちながら、地域に即した創意と工夫を行い、質の高い福祉サービスの提供の中心的役割を果たすことが求められています。

今皆さんに求められていることは、本養成所で学んだことを現場で活かし、ソーシャルワークの原理原則に則った実践をひたすら積み重ねることです。障害のある人たちや社会的困難を抱える人たちが地域で生活し、社会に参加し、充実した日々を送ることができるよう、力を合わせて参りましょう。



社会福祉士養成所 所長

井上 博

(日本知的障害者福祉協会 会長)

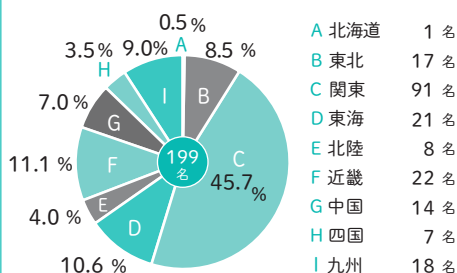
第32期生の概要（令和2年5月現在）

第32期生社会福祉士養成所の受講生は、199名です。
概要については下記の通りとなります。

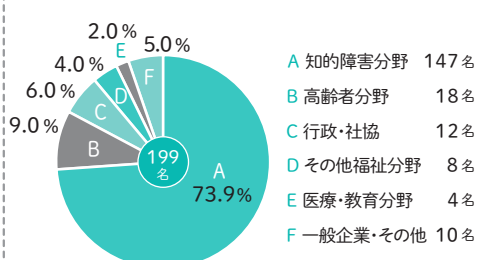
運営状況（過去3年間）

年度(期生)	応募者数	入学者数	修了者数
平成30年度(30期生)	235名	229名	217名
令和元年度(31期生)	252名	241名	
令和2年度(32期生)	208名	199名	

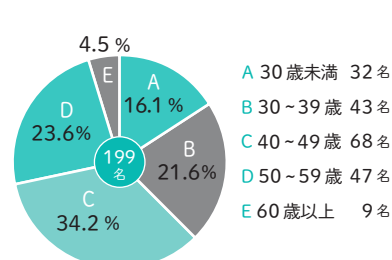
地区別分布



勤務先種別



年齢別分布



RESULT

第 32 回

国家試験
結果報告

第 32 回社会福祉士国家試験において本養成所より 153 名（うち元年度修了者 93 名）が合格しました。前年度（第 31 回試験）は 138 名（うち 30 年度修了者 73 名）でした。

これまでの国家試験の結果

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第30回試験	43,937	13,288	30.2
第31回試験	41,639	12,456	29.9
第32回試験	39,629	11,612	29.3
第1回試験からの合計	911,925	253,583	27.8

本養成所修了者の国家試験の結果

	総数 合格者(人)	新卒		
		受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)
第30回試験(28期卒業生)	171	174	84	48.3
第31回試験(29期卒業生)	138	200	73	36.5
第32回試験(30期卒業生)	153	195	93	47.7

第 33 回

社会福祉士
国家試験の概要
(予定)

試験日	令和3年2月7日(日)
受験手数料	15,440円(昨年度額)

受付(提出期間)	令和2年9月10日(木)から 10月9日(金)(消印有効)
----------	----------------------------------

※詳細は、社会福祉振興・試験センターのホームページ
<http://www.sssc.or.jp/> をご参照ください。

From Teacher

科目担当教員から

末光 茂

「人体の構造と機能及び疾病」担当
社会福祉法人旭川荘 理事長



「医学用語を毛嫌いせずに慣れましょう」

社会福祉士養成のスタート時から関わり、30 年余。当時、「愛護協会（現・日本知的障害者福祉協会）」会長を務めていた江草安彦前旭川荘理事長の求めでした。担当は「医学一般（現「人体の構造と機能及び疾病」）」で、スクーリング（今のような少人数の演習ではなく、大教室で全科目）の講義と小テストの作成、レポートの出題・採点などにあたりました。

「医学一般」は、「医学概論」でも「医学総論」でもなくて、何をどこまで教えるべきがよく判りませんでした。学習の範囲がはっきりしない上に、疾病の原因、治療、予後等どこまで詳しく伝えるべきか示されていません。国家試験も平易で簡単なものから、首を傾げたくなるようなものまであったため、70 点くらいを目標にと繰り返し助言していました。そのうち傾向と対策が見えるようになった頃には、スクーリングの対象でなくなり、ホッとしたものです。

30 年間続けたのは、代わりを引き受けてくれる人がいなかったのに加えて、レポートや質問の中に、よく勉強していてこちらが教えられたり、現場の苦労話や個人的な体験に根差した、生の情報等に感動する機会があったお陰です。

今では受講生の皆さんの顔を見る機会が無くなり、どのように勉強しておられるのか全く判りません。そのため、助言と言えるかどうか心配ですが、まず専門用語に慣れるか、せめて抵抗感を薄めておくことの大切さを自覚してほしい。30 年前も、社会福祉士国家試験の結果で低得点だったのは、「医学一般」と「法律」でした。両者に共通しているのが、専門用語の難解さです。他の専門職との間で、専門用語が壁になって、コミュニケーションが進まないということは避けてほしい。支援の対象者や家族も、わが事としてよく勉強しています。心したい。

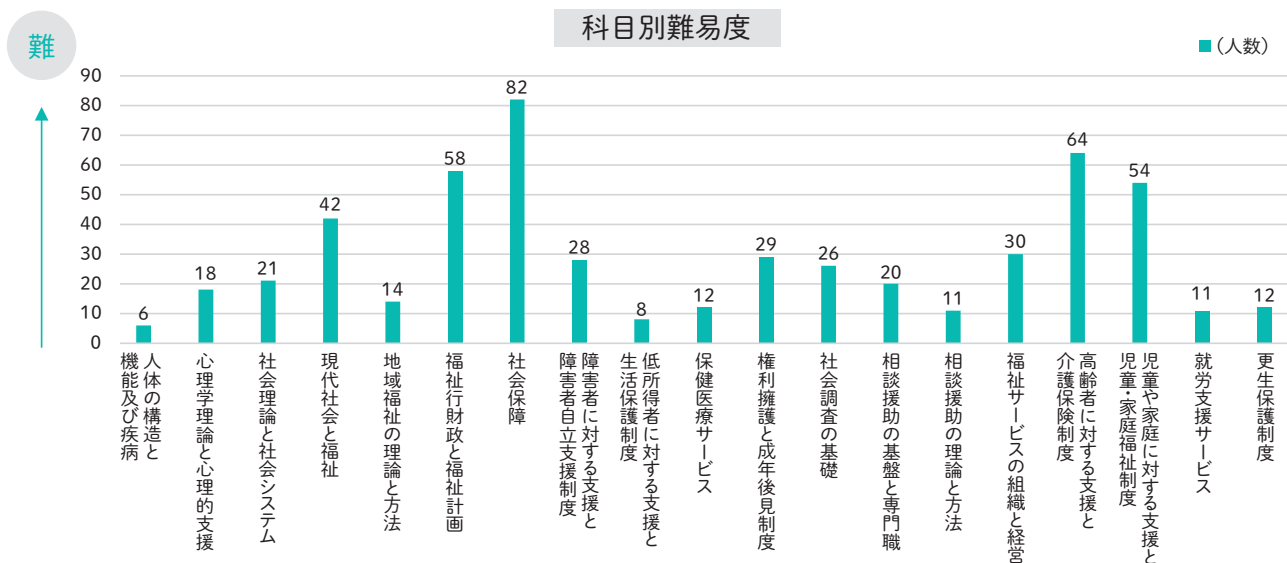
医学用語には一定のルールがありますので、それが判ると理解が大きく進みます。毛嫌いせず、慣れてください。

もう一点。50 年前の私の実体験です。目指した「児童精神医学」は、日本にまだ専門講座がありませんでした。仕方なく、先輩を囲んだ勉強会と自学自習に頼らざるを得ませんでした。昭和 47 年、当時の厚生省が児童精神科医の養成研修を主催。第 1 期の受講生 8 名のひとりに加わりました。講義内容には、特に目新しいものはありませんでしたが、それぞれの分野のリーダーから face to face で生の講義が聴けたことと、まとまりのある体系として学習できたこと、何よりも今までの学習で間違いなかったとの確認ができたことは、大きな自信に繋がりました。適当な表現でないかもしれませんが、「つまみ食い」的な知識の寄せ集めからの卒業だったかと振り返っています。

「医学一般」は、現在では「人体の構造と機能及び疾病」に変更され、スクーリングの対象から外れていますので、自学自習のウエイトがさらに重くなっています。難解な医学用語も、最近は何の新聞にも医学・医療コーナーがあり、判りやすく解説をしてくれています。活用してください。

資格取得の後も、今回の学習を現場実践で生かしていただくよう期待します。

第 32 回 国家試験に関するアンケート



令和元年 10 月に修了をした第 30 期生 213 名を調査対象とし、156 名（①受験をした 147 名②申込みをしたが当日受験しなかった 2 名③申込みをしなかった 7 名）からの回答が得られました。図は受験者の回答をもとに難易度（難しいと答えた人数）を示しています。

※厚生労働省への報告のため、現在もアンケートは回収をしていますので、未提出の方は早急に提出してください。

先輩からのメッセージ

学習を進めるヒント

〈場所と時間の工夫〉

- 家での勉強はすぐに寝てしまうし、ゲームや TV など刺激も多く集中できなかった。12 月後半からは、休みは図書館に行き集中を図った。
- 少しの時間で一つのことを覚える。家事をしながらイヤホンで Web 講座を聴く。車の中でも聴く。始業前の 30 分を過去問、模擬問を解く時間にし、夜に答え合わせをする等々。
- 仕事との両立は困難で時間が確保できず、応用問題は切り捨てひたすら基礎のテキストを精読した。

〈学習方法の工夫〉

- 普段のレポート作成時にその単元の過去問を行い、ポイントの把握をしながらレポートの作成を行った。
- 全体像を把握。0 点にしない科目、稼ぐ科目を決める（法律改正の少ない科目、SW 等）ひたすら模試を受け小さなヤマをたくさん作る。ひたすら過去問にあたる。難しい予想問題集はあまり意味がない。
- 模試で応用力と時間配分を身に着ける。会場の雰囲気、受験生の様子、試験問題、解説、全てが有意義。
- 養成所の国試対策講座の他にも勉強会に参加。模擬試験は 3 社を受験。参考書は 2 種類、過去問は 2 社を使用。
- 参考書は絞って徹底的にやり込む様にいわれたが、少し読んで「自分に合わない」と思い他の物に手を出すことが続いた。

〈気持ちも大事〉

- 養成所のメルマガで何回も励まされたし、意識付けにもなった。また、今の出来事を福祉とリンクさせて考えられた。

当日の経験から伝えたいこと

- 養成所の課題レポートを書くために勉強したことが試験に出た。試験対策も大事だが、日ごろの積み重ねが最後に味方してくれるように思えた。
- 試験では、聞いたことのない言葉があったため、新しい情報を入手するためにアンテナを広げることが必要と感じた。
- 国試は複雑に考える問題はないので、今までの勉強を信じ、一度決めた選択肢は見直しの時変えないほうが良い。1 点が大事。死守しよう！

残念ながら合格できなかった方のコメント

- 働いていると疲れて勉強できなかった。試験の結果を見ると、各教科あと 1 点ずつあれば、合格ラインであった。
- 11 月から始めたが遅かったと感じた。5 年分の過去問題集も使ったが、やっと 1 回通しただけ。
- 反省点しかない。課題レポート提出が終わり、受験資格を得た時点でしばらく試験勉強をする気力がわかず、試験勉強に取り掛かるのに時間がかかってしまった。
- 国、県、市町村の役割をしっかりと把握していなかった。
- 89 点ぎりぎり合格基準点に達したが、社会保障で 0 点を取ってしまった。今年は、苦手科目を重点的に学習しようと思う。来年は必ず合格したい。

The Teacher's Column

専任教員から

「初めまして」

きぶし まさずみ

木伏 正有

社会福祉士 登録第 99609 号



皆様、はじめまして。この5月から着任しました、木伏と申します。苗字も手強いですが、名前は親兄弟以外には読んでもらえません。社会福祉学部を卒業後、この3月まで地方公共団体の福祉職として障害のある方たちのそばで働いてきました。そして、私も皆様と同じように通信制の養成校出身です。しかも、思い立ったのが50歳目前であったので、スクーリングや数多くのレポートを青息吐息で乗り越え何とか国家試験もパスして、社会福祉士を名乗らせていただいています。そんな経験をぜひ皆様にも活用していただけたらと思います。

今年は、新型コロナウイルスの感染と共に始まり、皆様の職場もくらしも今までと違う様式が求められているのではないのでしょうか。そのような日々の中、当養成所で学びを深めていただけたことをとてもうれしく思っています。

例年であれば、この時期は、相談援助実習履修者向けの「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」のグループワークが終了し、仙台会場、大阪会場でのスクーリングが行われている頃です。通信制として運営しています当養成所としましては、皆様と対面で行うスクーリング(面接授業)や相談援助実習指導の機会をとても大事にしてきました。また、受講される皆様も互いの交流の場、励まし合う場として活用していただけていたと思います。

今年度は、それが全て行えなくなりました。この間、皆様の意向を踏まえながら「オンデマンド」(映像授業)や「同時双方向型」での代替授業を検討してきました。学校の授業だけでなく、遠隔会議やテレワーク、ネット呑み会まで、今回の新型コロナウイルスがもたらした新しい生活様式ともいえます。皆様のご協力なしには前に進むことはできません。新しい授業の形をぜひ体験していただきたく思います。

ところで、皆様は、どのような思いで社会福祉士の資格を取ろうと決めたのですか。そして、なぜ、「日本知的障害者福祉協会」を数多い全国の養成校の中から選んでいただいたのでしょうか。

当協会は、知的障害関係施設や事業所で構成される団体で、80年以上にわたって、知的障害福祉に関する政策提言、調査研究、啓発活動等の活動を行ってきました。当養成所もその人材育成活動の一環として平成元年に開設されました。入学された皆様が国家試験に合格できるように務めさせていただくことはもちろんですが、それだけではありません。知的障害をはじめ社会的に弱い立場にある人たちの目線で、誠実に「社会正義」を実現していただきたい、専門職としての倫理観をもって、よりよい社会の実現を目指していただきたい、そのような社会福祉士の養成が使命だと考えています。国家試験の合格を目指し一緒に学んでいきましょう。今後ともよろしくお願いいたします。

養成所
ニュース
プラス

「養成所ニュースプラス」は、登録されたメールアドレスに随時、養成所からのお知らせや受験に関する情報、過去の国家試験問題と解説等※をお届けするメールマガジン(無料)です。通勤・通学や普段の学習の合間に、受験勉強の“きっかけ”としてご利用ください。登録に関してはホームページをご覧ください。

無料

The form is titled '社会福祉士養成所 通信課程' (Social Welfare Worker Training Course, Correspondence Course). It includes a 'お問い合わせ' (Inquiry) button and a '登録' (Registration) button. The main content area is titled '養成所ニュースプラス' (Yoseiyo News Plus) and contains a registration form with fields for name, email, and phone number. Below the form, there is a section titled '養成所ニュースプラス 登録フォーム' (Yoseiyo News Plus Registration Form) with a list of benefits and a '登録' (Registration) button.

公益財団法人日本知的障害者福祉協会 社会福祉士養成所

社会福祉士養成所ホームページURL

<http://www.aigo.or.jp/yoseiyo/>

随時配信

各種情報配信

受験対策

※9月頃より「受験対策ミニ講座」を配信予定

令和2年度スクーリングについて

本養成所では今年度のスクーリングにつきまして、例年どおりの実施に向けて準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、実施方法を見直すことといたしました。

現状では、今後の状況は不透明であることから、予定していた形式でのスクーリングを中止し、事前に収録した講義動画を自宅で視聴し、課題レポートを作成・提出する「オンデマンド学習」にて代替することとし、現在準備を進めております。当該状況をご理解いただくようお願い申し上げますとともに、本件に際し、ご不明な点等がありましたら、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※養成所に対するご要望・ご意見等ございましたら、ご連絡ください。

✉ yoseiyo@aigo.or.jp

国家試験にむけてのおすすめ図書

- 週刊福祉新聞 (福祉新聞社)
- 福祉小六法 (中央法規出版、ミネルヴァ書房)
- 社会福祉用語辞典 (中央法規出版、ミネルヴァ書房)
- 社会福祉士過去問解説集、ワークブック、国試ナビ (中央法規出版)
- RB 社会福祉士国家試験のためのレビューブック (メディックメディア)